弘前大学と地域づくり

第6号　2015年春発行

発行：弘前大学大学院地域社会研究科　http://www.hirosaki-u.ac.jp/Tlag/index.html

編集協力：　NPO法人ひろだいリサーチ　　印刷：　やまと印刷株式会社

地域との真の連携とは

研究科長
北原　啓司

地域社会研究科長の任を務め始めてから、一年が経とうとしています。佐々木副研究科長を始めとする専任教員の皆さんのご協力、そして、学務部教務課のスタッフの的確なワークのおかげで、何とか新しい年度に向かえそうです。

新たな中期目標に向けて、大学全体が改革を進めていく中で、地域社会研究科も大きな節目を迎えようとしています。入学者数は例年、定員を上回る水準を保っており、今年度は四名が学位を取得しました。しかし、現状に満足するのではなく、より一層の発展を考えなければならない時期が到来していると自覚しなければなりません。

特に地域社会との関係性が高い本研究科では、地域との連携をさらに強化しながら、研究の質を高めていくと同時に、地域に実質的な貢献をしていくことを考えていくことが必須だと考えます。そのような意味で今年度は、青森県からの受託による「集落地域の実態把握と住民主体の計画・目標づくりに関する研究」を始めとして、地域人との連携による研究を進めるだけでなく、グローバルな研究発展を目指し、デンマークのコペンハーゲン大学、英国のニューカッスル大学との研究交流に向けた意見交換を、それぞれ現地に出かけてスタートさせ、三月十九日には、徳島大学、鳥取大学の事例を紹介していただきながら、「真の地域連携」をテーマに、地域フォーラムを開催することができました。

地域と連携することが目的ではなく、連携によって生み出されていく成果を、地域社会研究科は次年度も追い続けていきます。これまで同様に、ご理解とご支援をよろしくお願い申し上げます。

津軽地域づくり研究会

本研究科が二〇一〇年度から連携している津軽地域づくり研究会は、中南・西北地域の市町村職員有志による研究会で、二〇一四年度は十四市町村と県民局から三十名の職員が参加している。今年度は「人口減少克服」を統一テーマに掲げることを提案し、本学地域未来創生センターと共同で二〇一四年十月から二〇一五年二月にかけて連続セミナーを開催すると同時に、「子育て・長寿化」「空き家」などの小テーマによるグループワークを展開した。国立社会保障・人口問題研究所の小池司朗・西村幸満氏、また島根県中山間地域研究センターの野口拓郎・相川陽一（現長野大学）氏らを招いたセミナーの抄録は、同センター発行の報告書に収載されている。

（准教授・平井　太郎）

弘前大学防災社会研究会

本研究会は、東日本大震災を受け二〇一一年五月に立ち上げられたもので、セミナー・シンポジウムを定期開催している。運営に市民が関わる点に特徴があり、本年度セミナーではNPO法人津軽広域救急支援機構の協力により市内駐屯の自衛隊普通科第三九連隊から報告を受けた。また今年度は、弘前市から「弘前大学と弘前市の連携調査研究委託事業」を受託し、市が二〇一二年度から実施する「防災マイスター育成事業」の効果測定と制度改善提案にかかわる研究を実施した。研究の一環として、上記のセミナーに招いた稲垣文彦氏（中越防災安全推進機構）から防災マイスターのネットワーク化などの論点が示され、制度改善に生かされる予定である。

（准教授・平井　太郎）

青森県集落経営再生・活性化事業

本研究は、全国的に人口減少＝地方創生が問題化するなか、本学が果たしうる固有の役割について地域の住民・行政とともに導き出すことを目指すものである。きっかけは、二〇一三年度に県が市町村職員に呼びかけた「集落点検」の自主研究会に平井が参加したことであった。本年度は、県内五地区で「集落点検」を実施し青森県固有の地域づくりの方向性を見出そうと、人文学部・教育学部・農学生命科学部から計七名（研究科教員含む）の協力を仰ぎ分担した。

対象は、平内町第一藤沢（主担当：研究科土井良浩）、弘前市常盤野（同：研究科・教育学部北原啓司）、三沢市根井（同：研究科・人文学部杉山祐子）、七戸町白石（同：研究科平井）、新郷村川代（同：農学生命科学部藤崎浩幸）である。共通して（一）全戸面接調査→（二）成果報告会→（三）事業立案ワークショップの順で研究を進めた。並行して、集落対策にかかわる第一線の研究者や実務家を招き計五回のディスカッション・セミナー「青森県集落再生研究会」を連続開催した。セミナーおよび研究科カリキュラム「調査方法論」の一環として実施した七戸町白石地区の成果の一端は、『地域社会研究』最新号に収載されている。

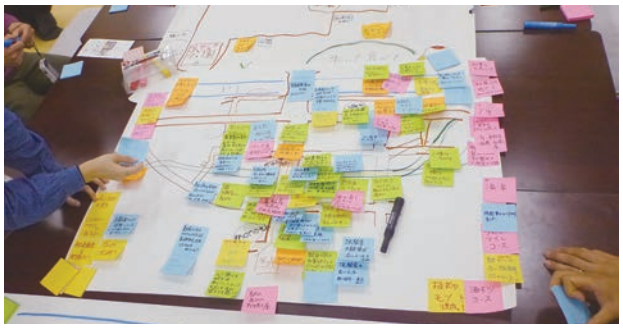
（准教授・平井　太郎）

あおもりツーリズム創発塾

二〇一二年度から青森県から受託している本事業では、より実践的でかつ俯瞰的な観光人材育成を進めている。まず人材組織化のワークショップでは、昨年度同様、弘前市の実務家と協力し、新たに板柳・木造で展開した。その際、昨年度成果を挙げた黒石・鶴田にも協力を仰ぎ、地域の主体が互いに触発する仕組みを目指した。結果として板柳での人材の組織化が実現しフォローアップを重ねる予定である。

また、観光にかかわる俯瞰的視野を共有するシンポジウムでは、昨年度に引き続き『津軽学』を運営する「津軽に学ぶ会」と協力し「ねぷた／ねぶた」をテーマにとりあげた。その際、このテーマではおそらく初めて地域・世代を横断する討議の場を設けるべく、青森・弘前・黒石・五所川原からパネリストを招いた。その結果、「ねぷた／ねぶた」につきまとう構造的な問題を突破するには、今回のような地域・世代を超える知見の共有が欠かせないことが確認された。

（准教授・平井　太郎）



地域社会研究科後援事業
―「『函館酪農公社』移動販売車に見る買物過疎地域への社会貢献的役割の研究」中間報告会

NPOひろだいリサーチは一般社団法人J-mi-kより標記調査を受託し、その中間報告会が、二〇一四年十二月二十日、公立はこだて未来大学サテライトラボにて開催された。弘前大学・竹ヶ原公客員研究員、青森大学・井上隆教授の標記研究報告、そして公立はこだて未来大学の学生による独自の研究発表が続いた。

討論では、地域の課題解決に向けて、地場企業が果たす役割などが議論された。最後に、ひろだいリサーチが道南と青森県における社会的課題を引き続き研究すると確認された。

（教授・佐々木純一郎）

入試案内

弘前大学・大学院地域社会研究科の入学試験については、左記までお問い合わせください。

弘前大学学務部入試課
〇一七二―三九―三九七三
三一九三

★当研究科では、所属する教員や学生が研究成果等を発表する「地域社会研究会」を公開で定期的に開催しています。興味のある方は、左記までお問い合わせください。

弘前大学学務部教務課
〇一七二―三九―三九六〇